

ユニット 3

子どもと未来：未来への架け橋

このユニットで考えること (Essential Questions)

1. 東北の震災が子ども達にどのような影響をもたらしたか。
How did the Tohoku disaster affect the children in the Tohoku area?
2. 困難な状況にある子ども達が未来へ向かって歩いていくために必要なことは何か。
What is necessary for children who are currently facing difficulties to take steps into the future?

Goals and Objectives

Goals

Content Goal:

- Students will gain an understanding of the initial impact the Tohoku area earthquake had on children and the major changes they are facing in their lives. This will include: continuing difficulties they have been experiencing; and approaches necessary to support and help those who have experienced the sudden loss of one or both of their parents.
- Students will learn to analyze what is necessary for the children to take steps into the future.

Language Goal:

- Students will obtain information from the video clip and websites about children who are having difficulties from the earthquake; and, in their own words, summarize and discuss the effects of the earthquake on the children. Then, students will analyze the support and help that has been offered to them and write/talk about how the children are trying to overcome the tragedy and what is necessary for them to rise up and learn to be resilient.

Objectives and Assessments

Objectives	Summative Assessment
Content Objectives Upon completion of this unit, students will be able to do the following:	
Read the essay written by the children who had lost their parent(s) under unusual conditions of the disaster, and analyze their pains, sorrows, and other complicated emotions.	Test
Discuss the situation of the disaster orphans, and point out the advantages and disadvantages of having relatives become foster parents in some of the orphans' situations.	Paper or essay
Analyze and discuss the following points from the articles about children who suffered from the disaster: <ul style="list-style-type: none"> • How the children's lives have improved after a few years following the disaster, and what difficulties they are facing (if any). • How the Tohoku disaster affected the lives of the children and their perspectives on life. 	Paper or essay

From authentic texts, students will be able to explain what the children need to overcome, and whether or not support and help are necessary to obtain it. If support and help is necessary, what kind of support and from whom should it come from?	Presentation and essay
--	------------------------

Language Objectives Upon completion of this unit, students will be able to:	
(Interpretive)	
Read essays that a disaster orphans wrote and demonstrate that they understand the children's state of mind, and surmise/explain feelings that they might have.	Test
From the authentic texts, obtain what influence the disaster had on the children and the current situation of the orphans, and demonstrate that they understand.	Test
Obtain information from websites and demonstrate that they understand what is necessary for the children to overcome the tragedy	Test or essay
(Interpersonal)	
Based on the information from the given authentic text about the support and help that have been offered to the disaster orphans, discuss how this support has influenced their lives.	Discussion rubric
(Presentational)	
Summarize, orally and in writing, the information they have obtained from the authentic text on: how the disaster has affected the children, what kind of situation the disaster orphans are currently facing, and what they need to overcome the tragedy.	Presentation/Essay

先生方へ

このユニットは他のユニットと比べ少し長くなっています。全ての資料を使ってしっかり学習するのであれば、8週間はかかりますが、少し駆け足で学習する場合は、最初の「はじめに」で使われている資料は簡単な紹介だけにするか、とばしてもいいかもしれません。

はじめに

1. 話し合ってみよう
 - 1.1. 東日本大震災がおきて、子ども達にどんな影響がありましたか(affected)。
 ここはブレインストーミングなので色々な答えを出させてください。ここで、簡単なディスカッションをし、震災で子ども達が置かれている状況や、それに関連するキーワードをできるだけたくさん引き出してください。その中で「家族が亡くなった」、「友達が亡くなった」という話が出てきたら、1.2. にいってください。「亡くなる」「安否不明」などの言葉もここで導入します。

- 1.3. 震災で家族がどこにいったかわからない子ども達はどんな気持ちになると思いますか。「悲しい」や「不安」などのことばに加え、「どこかで生きているのではないかという気持ち」というような答えが出るように誘導できれば次のアクティビティーに持っていきやすいです。
- 1.4. 上の 1.2. や 1.3. で出てきたような気持ちを持った子ども達は、どんな人にその気持ちを伝えることができると思いますか。
残った家族、友だちに加え、「カウンセラー」が出たら「心のケア」プログラムを簡単に紹介し、次のアクティビティーにつなげてください。

パート2 父を奪った海で人の命を助ける

I. 読む前に

- 2.1 名前やシンボルをヒントに、どのような支援をしているか考えましょう。それから、それぞれのウェブページについて、この表に書かれている支援があるものにチェックして、それがどのようなものかをユニセフの例のように簡単に書きこみましょう。「あしなが育英会」と「日本ユネスコ協会」は英語のページがあるので、それを読んでもいいです。わからない言葉は辞書を使ってもいいです。「あしなが育英会」も「日本ユネスコ協会」も日本語のウェブサイトのページが英語のものと対応しているわけではありません。どうしても自力で探せなさそうな学生には以下のウェブサイトを与えてください。
「あしなが育英会」英語サイト <http://www.ashinaga.org/en/news/press/entry-319.html>
「日本ユネスコ協会」<http://www.unesco.or.jp/en/activities.html>

パート3 子ども達の声を復興に（日本）/プラン・ジャパン

I. 見る前に

- 2.2 Picture for Life という子ども達のプロジェクトがあります。そのトレーニングの Day1 から Day 18-20 までの写真が次の図にあります。この中で大人がイニシアチブをとっている部分はどこだと思いますか。次の写真と説明（英語、日本語どちらでもいいです）を見て考えてください。また、ほかにどのような部分で大人が手伝っていると思いますか。
期待する答え: Day 1 と Day 2-3 が答えですが、最初の段階では色々な答えが出てかまいません。たくさん色々な答えが出た後に、実は このプロジェクトでは、大人が先頭を切って進めているのは最初の 3 日間だけだったそうですが、この段階で、どうしても大人の手が入らないといけないかということを考えさせてください。
- 2.3. 2.2 で答えた部分では、なぜ大人の助けが必要なのでしょう。子どもだけではできないからという答えが期待されるので、ここから、どうして子どもだけではできないのかを引きだし、次の設問につなげてください。

期待する答え: 子ども達が間違ったり、分からなかったりしたときにヒントを与える時。またその活動がうまくできるように助ける時。また、子ども達が中心になって活動できるように講習会をひらく時。

- 2.4. 大人が手伝ってはいますが、このプロジェクトで中心になっているのは子ども達です。大人が中心となってこのようなプロジェクトをすることと、子どもが中心となってすることでは何がどのように違うでしょうか

大人が中心になると、子どもは自分で何も考えない。しかし、子どもが中心になることで、子どもは間違えたり失敗したりしながらも批判的に物事を考える力や問題を解決する力、行動力などが身につく。また、大人にはないかもしれない子どもの視点で物事を捉えることができるので、大人にはない発想でプロジェクトが進んでいくかもしれない。というようなことを引き出してください。

- 2.5. 子ども達にとってこのようなプロジェクトをすることは大切だと思いますか。それはどうしてですか。子ども達はこのプロジェクトをすることでどのようなことを学んでいるのでしょうか。

期待する答え: 自分たちで問題を見つけ、解決する方法。また、地域のためにどのように自分たちが関わっていけるか、また自分たちが地域の一員で、コミュニティーやそのコミュニティーの人を助けることを学んでいる。

※下線部の部分はウェブサイトを読んでいたら出てくる答えです。読んでいなければ引き出すのは難しいと思いますが、この段階で無理に引き出す必要はありません。

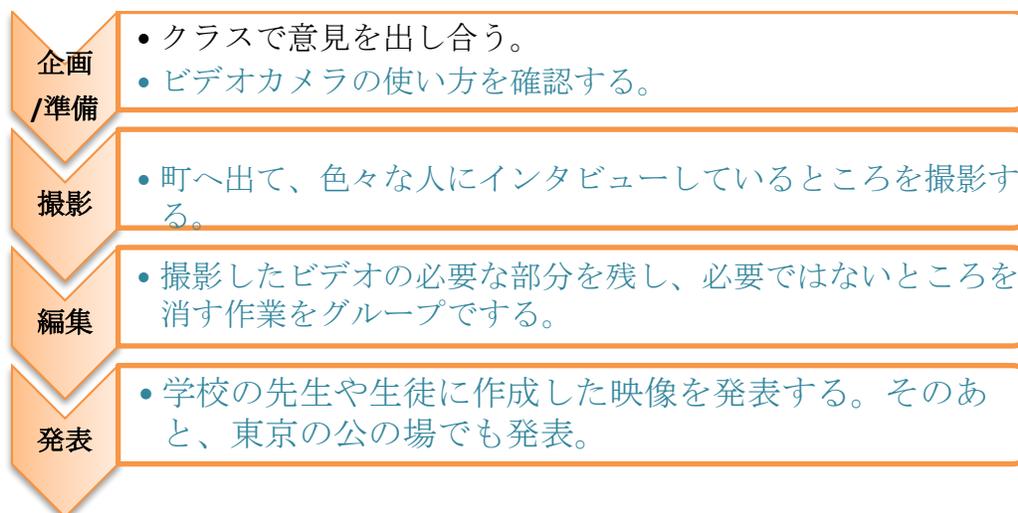
- 2.7. 2011年3月11日には日本の東北でも同じように大きな地震が起こりました。被害を受けた日本の東北の子ども達もインドの子ども達がしたようなプロジェクトができると思いますか。

色々な答えが出てもいいが、この段階では、はい・いいえだけでもいい。

II. 見てみよう

- 3.9. このプロジェクトの全体の流れを図にしてください。

期待する答え:



III. 見た後で

1. 話し合しましょう

- 1.1. このプロジェクトを子どもが中心になってするためにはどのような支援が必要ですか。子どもだけでできることと、大人の助けが必要なことを話し合っってリストを作ってください。

期待する答え:

子どもだけでできること	大人の助けが必要なこと
わかったことをもとに、プロジェクトのアイデアを出し合ったり、リサーチをしたりしながらプロジェクトを進めていく。	子どもがプロジェクトをするために、わかっておかないといけないことを子ども達に教える。

- 1.2. 子ども達が中心となってするプロジェクトによって、子ども達は何ができるようになると思いますか。

期待する答え:「調査をしたい時に、自分でできるようになる。」「ビデオの編集ができるようになる」などの具体的な答えから子ども達の自立に関する抽象的なものまで色々な答えが期待できますが、「自分で考え、行動できるようになる。」また、「地域に積極的に関わっていこうと思えるようになる。」「地域を立て直したいと思うようになって、自分ですのために行動できるようになる」など、子ども達自身の自立や地域としての自立に関する答えがでるようによく誘導してください。

最後に

1. このユニットの中に出てきた色々な支援をリストし、3つのカテゴリーに分けてください。また、それぞれの支援が子どもたちが立ち上がる時、どうして大切かを2、3人のグループで話し合ってください。そして次の表をうめてください。

このユニットに出てきた3つのタイプの支援(経済面での支援、心理的な支援、子ども達が立ち上がっていくための支援)があったことを思い出させ、以下の例のように整理させていただきます。

支援の 카테고리	それぞれの 카테고리に入る支援	どうして大切か
1 経済的な支援	あしなが基金からの奨学金 一時金など	夢をかなえるために教育を受ける資金になるから
2 心理的な支援	心のケア、レインボーハウス、サマーキャンプ	震災で負った心の傷を癒し、これからの未来に希望を見出せるようになる
3 子どもたちが立ち上がるための支援	未来を写そうプロジェクト、子どもゆめ議会、(スマトラの地震の時のプロジェクト、東北の子どもたちのプロジェクト)	主体的に地域に関わっていくことで、自分で考え、行動を起こしていく力をつけられる。また、自分で何とかしなければいけないという気持ちが子ども達の自立にもつながる。

4. (Optional Project) ^{かほく}河北新報による「今できることプロジェクト」というプロジェクトでは、たくさんの人たちが被災地のために自分が今できることを投稿し、行動を起こしています。子ども達を支援するためにみなさんには何ができますか。2.で話し合ったグループのメンバーと、2.と3.で考えたことを元にアイデアを出し合い、「今できることプロジェクト」
<http://www.kahoku.co.jp/imadeki/index.html> に投稿してください。
 投稿サイトに学習者が自分の考えを投稿する時は、語彙や文法、そして内容について、必ずクラスメイトと先生にフィードバックを貰ってから書き込むよう、ご指導下さい。投稿サイトに書き込む時には、読み手を意識して責任ある書き込みをするようにクラスで話し合ってください。

ビデオのスク립ト

パート3

子ども達の声を復興に (日本) /プラン・ジャパン

<http://www.youtube.com/watch?v=kBCLnY4EMx0>

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、地震津波の被害により、死者、行方不明者は2万人近くにのぼりました。世界の子どもたちのために活動する、国際NGOプランジャパンは未曾有の大震災を受け、初の国内支援を決定し、3月下旬から避難所や仮設住宅への物資の配

布、こどものためのスペースの設置や、子どもたちの心のケア支援、学用品の支援などに取り組んできました。

プランジヤパンはこれまで数多くの開発途上国で、子どもたちの権利を守るための地域づくりに取り組んできました。子どもたちの権利を守るためには、子どもたち自身が社会に参加し、声を上げ、大人が受け入れる環境から整える必要があります。今回、プランジヤパンが宮城県の3市町村で実施した活動が未来を写そうプロジェクト。子どもたちが自分の暮らす地域の未来を思い描き、映像や写真で発信することで、子どもたち自身が声を上げる力をつけ、大人が見落としがちな視点に気づかせてくれます。

七ヶ浜町にある、七ヶ浜中学校生徒会の子どもたちが手に下のはビデオカメラ。映像制作の企画準備、撮影、編集、発表という流れを一から学び、自分たちが見たこと、感じたことを世界中の人に伝えるための映像制作に取り組みました。

(03:09)実際に町に出てインタビューしてみると・・・

「なかなか難しいです。」

「心が折れそうですね。」

(05:33)その後、七ヶ浜中学校の生徒は東京で映像を発表。石巻や女川の子どもたちが撮った写真も各地で展示会を行いました。

また、9月には2004年12月にスマトラ沖で起きた地震による津波で被災したインドの青年が来日し、当時11歳だった彼がどのように地域の復興に貢献したかなど話し合いました。

七ヶ浜町には子どもたちの声を町の政治に生かそうとするユニークな取り組みがあると知り、尋ねてみました。今年で11年目となるふるさと子どもゆめ議会は町内の5つの小中学校が一緒に行う活動の一つです。子どもたちが自分たちで調べた町の課題を議会で町長に質問し、それに対し、町長は普段の議会と同じように答弁に臨みます。今年のゆめ議会では小学生から笑顔あふれる元気な街にといった提案や支援してくれた人へ感謝を伝えるといった提案、節電を実行すること、などの提案があり、中学生からは津波を想定した避難経路を示す看板作りの提案や、チャリティーマラソンを行うこと、などの提案が出されました。ゆめ議会を間近に控えたある日、塩見小学校を訪ねてみました。塩見小学校では6年生にゆめ議会での発表のためのアンケートを募ったところ、節電への関心が高いことがわかり、町へ節電を提案することにしたそうです。

ゆめ議会では町の課題を提案するだけでなく、提案した課題について自分達では何ができるかも発表します。

(こどもの提案)

発表した内容は学校へ持ち帰り、課題を解決するために学校全体で考え行動するようにしています。

ゆめ議会の感想をきいてみました。

「大人たちは選挙とかで自分の意見を町に反映させることができるけど、こどもはなかなかそういうことができないので、この子どもゆめ議会はこどもの意見を反映させるいいチャンスだと思っていました」

七ヶ浜町の復興には10年以上かかるといわれています。10年後の復興を考える今こそ、子どもが中心となって町の将来を考えるゆめ議会の意義がある。こうした町の考えによって、今年も

11月、震災復興、ふるさと子どもゆめ議会は開催されました。未来を担う子どもたちには新しい世界を作り上げる発想と力にあふれています。その声に耳をかたむけるのは地域復興の近道にもなるはずです。七ヶ浜町のような取り組みが各地に広がっていくことを願っています。ふるさと子どもゆめ議会は私たちに多くのことを教えてくれました。日本で、そして世界で子どもたちの声を大切にする社会が広がっていくよう、プランジャパンは取り組んでいきます。

「七ヶ浜の海はとてもきれいで、七ヶ浜に住んでいる人たちの優しさや心の美しさを表していると思います。私たちは七ヶ浜のすばらしさや美しさを世界中の人たちに伝えたいです。町民の一人として、七ヶ浜の明るい未来に向かって全力で取り組みます。」